

小中一貫教育とCSのさらなる充実へ

小中一貫・CS 通信

NO.59 R6.2.28 幕別町教育委員会 学校教育推進員

暖かな陽気が続き、春の到来の早さを感じさせる今日この頃ですが、一方でコロナとインフルエンザの流行はまだ続いていて、年度末に向けていっそうの注意が必要な状況です。この時期、各学園では運営協議会で来年度の学園・学校経営方針の承認が行われ一足先に新年度が開始されます。町全体の小中一貫教育・CSも第2回の連絡会議で今年度の振り返りを行うことができ、軸足を次年度へと変える時期となりました。今月は、その第2回幕別町小中一貫教育・CS推進連絡会議の報告です。

第2回小中一貫教育・CS推進連絡会議開催 2/8



2月8日(木)、第2回小中一貫教育・CS推進連絡会議が白人小学校多目的ホールを会場に集合形式とオンラインのハイブリッド方式で開催されました。

はじめに川瀬教育部長が教育委員会を代表して挨拶し、各学園が互いの実践を自分事として学び、学園の運営に生かしていこうと呼びかけました。

次に橋本靖宏会長(まくべつ学園長)の司会・進行で各学園からの活動報告に移りました。

各学園からの活動報告 (発表資料は町ホームページに掲載しています)

まず、まくべつ学園から順調に進んでいる小中一貫教育として小中合同校内研修の様子が詳しく報告されました。まくべつ学園では、今年度から小中統一の研修主題を掲げ、各校で行う研究授業を相互に参観できるように体制を整えてきました。11月の合同研修会(他の学園では実践交流会)を幕別小学校で開催し、低中高それぞれの授業公開と研究協議を行っています。同じ研究主題に基づいて実のある話し合いが行われていることが報告されました。

さらに運営協議会の取組について説明があり、回を重ねるごとに充実している熟議の内容が紹介されました。出てきた意見は事務局ですぐにまとめられ活用できるように工夫されています。熟議をもとに地域の力を総合的な学習の時間の教育課程に反映させることができたことも報告されました。

続いて糠内学園から、今年度拡充された中学校登校・乗入授業、学園マラソン記録会、他地域交流などの小中一貫教育の取組について報告され、そのあと運営協議会の橋詰会長から、地域学校協働本部の設立や諸鈍小中学校との交流について報告がありました。

報告では、オンライン交流を続けている諸鈍小中学校を昨年11月、橋詰会長と黒沼副会長の2名で実際に訪問した様子が生き生きと語られました。飛行機を3回乗り継いで奄美大島に行き、さらに船で加計呂麻島に渡り諸鈍小中学校を訪問したこと、授業で



北海道や十勝、糠内のことを説明したこと、学校設置者である瀬戸内町教育委員会を訪問し南北の学校交流の意義を確認してきたこと等々、参加者が興味津々聞き入る内容となりました。将来的に子ども達の相互訪問の実現という願いも表明されました。

さつない学園からは、今年度充実した取組として、小中教育課程の接続、学園課題を意識した計画的な乗入授業、小中合同あいさつ運動や特別支援教育の連携、教育実践交流と合同検定の充実が報告されました。組織的な動きとして、さつない学園会議で確認されたことが各部会に確実に伝わるようになり、それを受けて各部会が自発的に動くようになってきたこと、小小連携が進んできたことが大きな成果として強調されました。

CSは、熟議で出されたアイデアをどうしたら具体化できるか検討している段階で、「さつ学ファンボランティア」募集の継続とともに来年度へ向けての課題となっていることが報告されました。

札内東学園からは、小小連携の「野遊び×教育プログラム」や乗入授業等の小中一貫教育、運営協議会の熟議の様子や地域学校協働本部の活動の様子が報告されました。

「野遊び×教育プログラム」が全学年で行われるようになり、昨年は6年生だけだった合同授業が2年生以上の各学年で実施されるようになったこと、乗入授業が拡充され、中学校登校も定着してきたこと、中学校の生徒会が発行するお便り「LFES」を中学生が各小学校に持参して届けていることなどが説明されました。



CSの取組では、運営協議会での熟議の内容や地域学校協働活動としてのチロッター（白人小）、きたよ〜♪（札北小）の活動報告があり、札東中での取組としてパークゴルフ協会からの講師の協力によるパークゴルフ体験や地域の協力による職場体験学習、防災学習・震災学習等の取組も紹介されました。

ちゅうるい学園からは、小学校のカボチャプロジェクト、シーニックカフェ学習、中学校のちゅうるいPR活動（修学旅行）、事業所訪問による深堀学習、地域活性化案発表会など、多彩なふるさと学習・キャリア教育の取組が報告されました。教育実践交流会や合同研修会、1日体験入学（中学校登校）、乗入授業など活発な小中一貫教育の取組も紹介されました。

運営協議会の様子も報告され学園評価の結果検証や次年度に向けての意見交流の内容が紹介されました。学園・学校の取組がしっかり地域に理解されていることがわかる報告でした。

質疑応答コーナー

各学園からの報告の後、グループ協議を行い他の学園へ質問したいことを話し合いました。休憩をはさんで質疑応答に入りました。

まくべつ学園からはさつない学園に対して、ボランティア募集チラシの配布方法や周知方法について質問があり、児童生徒を通じて配布していること、今後町内会等との連携も模索していることが回答されました。

糠内学園からは、学園の重点である児童生徒のコミュニケーション能力の育成について工夫していることがあれば聞きたいとの要望があり、これに対してまくべつ学園が系統的に進

めている総合的な学習の時間の中で、同じような学習内容の際、中学校が小学生を招いて合同授業を行っていること、中1が小学生に算数を教える取組をしていることなどを紹介し、その中で児童生徒のコミュニケーション能力を高めていると回答しました。

札内東学園からは、糠内学園とちゅうるい学園に対して、取組にかかる経費をどう調達しているのかと質問がありました。糠内学園から「今回の奄美大島への訪問は自腹です。」との回答がありました。ちゅうるい学園からは、ゆり根配布など JA 忠類の全面的な協力があり、学園・学校の負担はないとの回答がありました。

さつない学園からは札内東学園へコーディネータ的な役割の人の様子、地域人材の組織化の方法等について質問がありました。地域学校協働本部の地域プロデューサーがパワフルに動いてくれていること、はじめのうちは学校が積極的に関わるのが大事との回答がありました。課題にも言及があり、チロッターは保護者中心で卒業後継続できるかどうか、きたよ〜♪は地域の方々が中心であり広がり課題をもつとの話がありました。

ちゅうるい学園からは、札内東学園に対して、生徒会の小学校へのお便り配布の様子について質問がありました。生徒会が発行する「L F E S」は体育祭や文化祭、卒業式など大きな行事の時を中心に年6回発行され、生徒会役員が直接小学校を訪問し手渡ししていると回答がありました。

閉会とまとめ、振り返り

会議の最後に、横山副会長（札内東学園長）の閉会挨拶があり、小中の9年間の連続した一貫教育を重視し、地域とともにある学校、学校を核にした地域づくりを一体的に進めていこうと、明日への活力が出るまとめがされました。

会議終了後、各学園で振り返りの話し合いが行われ、流れ解散で全日程を終了しました。

今回、初めて Google Meet を使ってオンライン会議を行いました。GIGA スクール構想で配備されたタブレットはカメラとマイクが内蔵され、クラウド上でデータを共有できるなど使い勝手がよく、発表を相互に見るだけであればズームよりも使いやすい印象をもちました。

リモート会場の忠類中学校でも、映像・音声、資料画面がしっかり届いていたと聞き、事務局一同ほっとしているところです。



小中一貫教育・CS関係 3月の動き

- 1日(金) さつない学園算数乗入授業（古舞小）
- 5日(火) さつない学園会議（札内中）
さつない学園新入生保護者相談会①
（こころ部特別支援部会）
- 6日(水) まくべつ学園小中合同あいさつ運動
さつない学園新入生保護者相談会②
（こころ部特別支援部会）
さつない学園小中児童生徒様子交流
- 7日(木) 札内東学園運営協議会
- 11日(月) まくべつ学園運営協議会
- 13日(水) さつない学園小中児童生徒様子交流
- 21日(木) さつない学園小中児童生徒様子交流

会場となった白人小学校には、会場設営から Google Meet の接続まで様々なご協力をいただき、リモート会場の忠類中学校にも接続のリハーサル等々で多大なご支援をいただきました。紙面をお借りして心から感謝申し上げます。

今後、各学園から寄せられるアンケートをもとに改善を図り、次回会議に備えたいと思います。発表資料を作成していただいた各学園のコーディネータと事務局の皆様、会議に参加された皆様のご協力に感謝いたします。ありがとうございました。